

商店街と学生の連携による地域産業の活性化

—情報教育における問題解決能力の育成をめざして—

大阪府立清水谷高等学校 教諭 稲川 孝司

ねらい

高等学校では平成 15 年度から教科「情報」が新設され、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度を目標として授業が始まった。教育課程審議会と中央教育審議会の答申は、「学校の自主性・自律性の確立」を踏まえた、特色ある開かれた学校づくりを通して「ゆとりの中で生きる力」の育成をめざしている。しかし連携の必要性が叫ばれているにもかかわらず、前例や慣習にとらわれ開かれた学校にほど遠いのが学校の現状である。

そこで、本研究は、(1) 学校という枠の中の閉鎖的な状態から脱却し学校が地域社会と連携することで、開かれた学校として学校教育の弾力化を図る、(2) 具体的な「ちらし」や「Web ページ」を作成することで、生徒たちが今まで学んできた情報関連の知識や技能を生かして主体的に資料収集や調査研究する方法を身につけ、問題を解決する能力を養い、成果発表の場を通して表現能力を高める、(3) 高校生と地元の店主との双方向の交流を通して、商店街の活性化や地域産業の活性化、地域に根ざした青少年活動の活性化などをはかり、地域コミュニティの形成や町作りに貢献する、ことを目標に実践を行った。

実践の概要

学校近くにある玉造日之出通北商店街（大阪市天王寺区）の協力を得て、店で活用できる実用的な「ちらし」と「Web ページ」作成の授業を行った。「ちらし」は店頭に掲げてもらう、「Web ページ」は商店街が提供している Web ページに生徒作品集として載せてもらうことを条件に作成した。受講者は昨年度「情報」を履修した生徒の一部で、選択科目として履修している 20 名である。以下に実践内容を列挙する。

- 4 月 学校近くの玉造日之出通北商店街理事会と打ち合わせ（稲川）
- 6 月 商店街の理事会から商店街の歴史と現状についての講義
- 8 月 夏休みに店主対象の IT 講習会を開催（稲川）
- 10 月 商店街を下見し、印象や問題点、改善点などの報告書を作成
- 10 月 グループを作成し、グループごとに商店を決定
- 10 月 商店の取材
- 11 月 グループごとにコンセプトシートと「ちらし」を作成
- 12 月 できあがった作品を店主に見てもらい、再度修正
- 12 月 チラシについてのプレゼンテーションの公開授業
- 12 月 チラシを店前に貼りだしてもらうよう依頼
- 1 月 Web ページのための取材と実際の Web ページ作成



店主対象の IT 講習会



取材中の生徒



発表中の生徒 1



発表中の生徒 2



店先に貼りだした「ちらし」

成果と課題

学校教育の活性化に向けた社会人活用として、大阪府学校支援人材バンクの制度を利用して商店街の理事に本校で講演してもらった。また、商店街の人たちには学校を開放して簡単なパソコンの使い方などの講習会を行った。生徒は取材のために商店の人と何度も話をし、苦労しながらも必要な情報を得ていた。公開授業でのプレゼンテーションでは商店街理事会と商店から合計 13 名の参加があり、学校側も管理職を含めて 6 名が参加した。報道関係も全国紙を含め 3 社がこの公開授業を取材し、活動内容が新聞に掲載された。以上の活動は、学校が地域と連携し開かれた学校作りへの一歩になった。この授業での生徒の学習意欲は非常に高く、自らの考えを表現するために積極的に学習した。またちらし作成の観点から商店街を観ることで、生徒は受身的な立場から主体的な立場に代わり、ちらしや小売業に対する見方が変わってきた。また社会的視野の拡大や職業観の育成に寄与できた。今後、地域の協力を得るだけでなく、生徒が作成した商店街活性化への提案をどのように地域に向けて発信し還元することができるのか、どうすれば学校と地域の連携をさらに密にできるのかを探ることが必要になってくる。